

# 行政視察報告書

令和5年10月18日

会派名 江南藤クラブ  
会派代表者 堀 元

(参加者：堀元、大藪豊数)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和5年10月11日(水)
視察時間	13:00 ~ 15:00
視察先	三沢飛行場(青森県三沢市)
視察項目	三沢飛行場について

# 行政視察報告書

年月日	令和5年10月11日（水）
視察時間	13:00 ~ 15:00
視察先	三沢飛行場（青森県三沢市）
視察項目	三沢飛行場について
<p>■目的</p> <p>江南市は、岐阜基地と小牧基地の間にあり、自衛隊機やその他の航空機が真上を通過している市であり、小牧基地には、在日米軍機が毎年燃料給油等のため飛来しており、市民も自衛隊や在日米軍に関心が高く、江南市としても航空機事故等が発生した場合などの有事の際に市民の安全を確保しなければならない。また、近年、小牧基地での日米共同訓練の実施も増えてきていることから、自衛隊側の事故対応のみを学ぶだけでは足りないと考えている。さらに、小牧基地は自衛隊機と民間航空機が滑走路を共用している基地であり、在日米軍、航空自衛隊、民間航空が滑走路を共同使用し、日米共同訓練の実績が多く、安定的に使用されている本州所在の在日米軍三沢基地を視察し、航空機事故等が発生した場合などにおける基地の対応等を学ぶ。</p>	

## ■内容

航空自衛隊小牧基地と岐阜基地の中間に位置する江南市の危険度と万が一の時の対策を伺ってきた。

まず、この基地には Air Force(空軍)2,739名、Navy(海軍)685名、Army(陸軍)24名とアメリカの全ての軍隊の職員が勤務しており、同基地を共有している航空自衛隊員3,010名と連携をとって作戦を遂行していることが分かった。

視察には、先般米軍と自衛隊で、第5世代戦闘機 F-35 を持っている自衛隊と、第4世代戦闘機 F-16 を持っている米空軍が共同訓練をした際に参加したパイロットのケビン氏が随行してくれ、自身が搭乗している機体とその戦闘装備品(武器)、また万が一の際の対策についてご教示いただいた。

結論から言うと、ケビン氏が言うところでは・・・

『今の戦闘機が事故を起こすことは無いと言い切っても良いが、万が一事故が起きるとするならば、着陸時しか考えられない。すなわち、小牧基地と岐阜基地の間に住んでいる環境であれば事故は無い、安心して過ごしてくれ。』

・・・と、考えもしなかった回答が来たことに本当に驚いた。

機体等についての説明もあり、自衛隊の F-35 のレーダーはとてもすばらしく、合同訓練では F-35 がレーダーなどから得た情報は瞬時に軍専用の特殊なネットワークを通じて米空軍の F-16 や両方が持っている F-15 に共有され、そのデータをもとに米空軍の F-15 と F-16 が敵地に攻撃を仕掛けるのだそうだ。この基地には米軍の F-35 が配備されていないので、頼みの綱は自衛隊の F-35 だとのことである。

## ■所感

ケビン氏の話のとおり、墜落など万が一のことは起きない可能性が高いのとのこと分かり安心はした。しかし、市民の心配はあると思うので、今後も対策等の調べを進めていきたいと思う。また、世界の情勢もしっかりと勉強していきたいと考えている。